



東 京 各 種 新 聞

○十月十日午後九時分の東京久右門町  
九番地の住三軒和二郎が富沢町を通りかると  
何者とも知らず行成小突ある懐中の小包  
内金六円十二銭五厘外書類の入り  
あつて引さかひ逃走せしむるに  
取押さるる被擒捕へ手もくまのり  
取出し和が面部を  
左りの助(四ヶ所計の  
傷を負せ  
人殺しく  
と叫ぶて用つ  
此町内の掘井  
久五郎方止宿  
て在る王子八  
幡宿の森田  
屋の雇人豊  
住長兵衛が  
助付の助力  
と云ふより



此者の肩先一疵を負せ逃去る跡を追かけて  
泥棒くと聲をかけると闇夜も近傍は  
客待の人力車夫の泥棒と行先とある三人  
寄たり終つて押してさす蹴り海鼠のやうに  
あつた数多の巡査を走集り一長兵衛と  
介抱し近紐乃匠者より借取わざ  
曲者と取調を拘引る前に車夫共  
獲のあつた頭上は深き打き手一ヶ所  
又打撃の強きより舌  
まろぬすする虫の息を  
糞町二丁目  
廿四番  
地森  
熊吉と  
申し升

○飯田町四丁目の闘半の場  
所て同所三丁目住む吉岡  
龜吉が六百円の證書と一通と  
二百円の證書と二通外は雑品と

拾つたか何れも此中の見物の人々  
落りたりと思ふと果して北紺屋町の  
山家喜四郎といふものゝ落りたと  
目せ丸うてたのびて居ゆゑ  
渡りしは是の当坐のあまのこ  
金七十四圓のりまゝに又彼の  
麻布日々定南雲龜吉の娘あつた  
西京八坂新地の  
美代鶴といふ  
舞妓さん  
孝行を感して  
全四文を  
てあつた

○七弦琴で名高き井上竹造さん  
上野公園池内より東漸院の地内住し十月十五日  
あつた浅野内匠頭殿中及儀の時抱とあること  
毎三兵衛の時着の社行とあること  
日記と得て好事家展覧さるといふこと



東京新聞  
舞臺  
血闘

